

「携帯電話等の周波数有効利用方策」のうち 「2GHz帯におけるTDD方式を活用した移動通信システムの技術的条件」 の審議について

1 審議開始の背景

我が国の携帯電話及びPHSは、平成19年11月末現在1億482万加入に達し、国民生活に最も身近な移動通信システムとして広く浸透する一方、近年の社会・経済活動の多様化・高度化及び情報通信分野の急激な技術の進展等に伴い、より高速・大容量で利便性の高い移動通信システムの導入に期待が寄せられている。

また、2GHz帯のTDDバンド（2010-2025MHz）を利用する計画であったアイピーモバイル株式会社が、本年10月30日、特定基地局の開設計画の認定返上の申し出をし、総務省は、本年12月12日、電波監理審議会からの答申に基づき、この認定を取消したところである。

このような背景を踏まえ、現在当該周波数帯については、TD-CDMA及びTD-SCDMA方式が定められているが、国内外の技術の進展及び周波数の一層の有効利用を考慮して、今後の2GHz帯におけるTDD方式を活用した移動通信システムの技術的条件を検討するものである。

TDD : Time Division Duplex（時分割複信）

TD-CDMA : Time Division Code Division Multiple Access（時分割符号分割多元接続）

TD-SCDMA : Time Division Synchronous Code Division Multiple Access（時分割同期符号多元接続）

2 審議内容

2GHz帯におけるTDD方式を活用した移動通信システムの技術的条件

3 審議体制

既存の携帯電話等周波数有効利用方策委員会（主査：服部 武 上智大学理工学部教授）において審議を行う。

4 答申を予定する時期

平成20年5月頃

5 答申が得られたときの行政上の措置

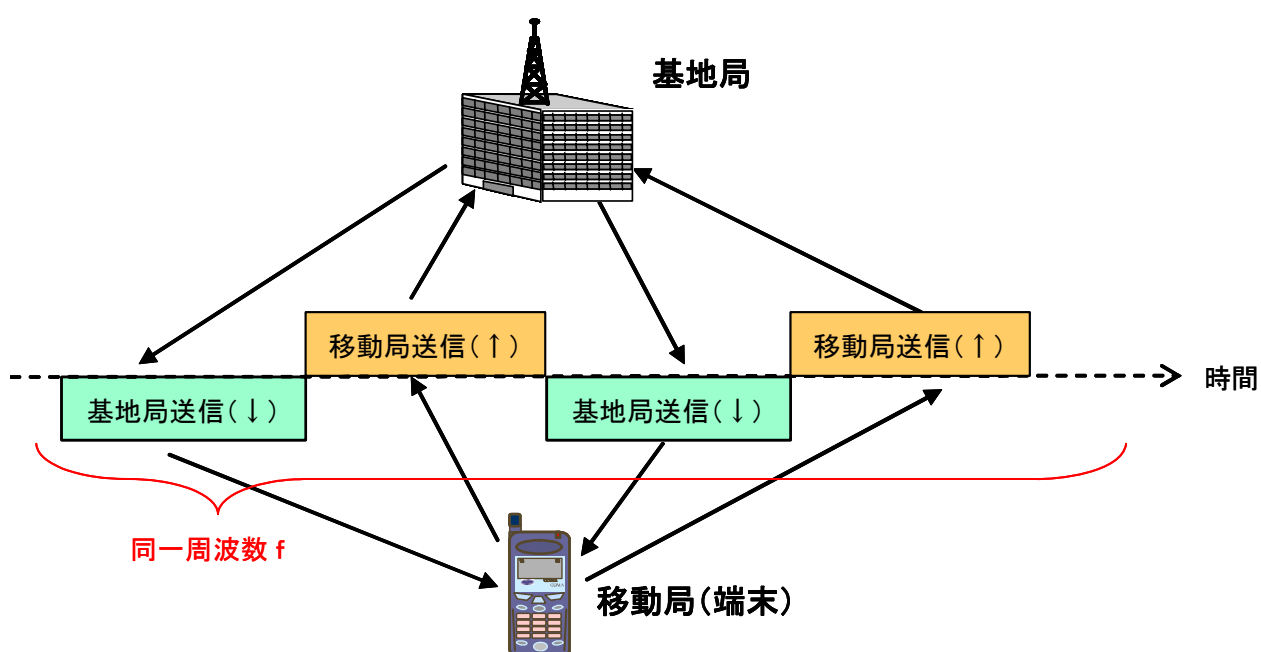
関係省令等の改正に資する。

TDD 方式の概要

- 1 基地局送信（下り）と移動局送信（上り）を同じ周波数で実現。



- 2 基地局送信 と 移動局送信を 時間的に切り替えて制御。



【参考】 TDD 方式の例 :

TD-CDMA、TD-SCDMA、WiMAX、次世代 PHS、MBTDD-Wideband、
MBTDD 625k-MC(i-Burst) 等

検討項目

2GHz 帯 TDD 方式を活用した移動通信システムの技術的条件について、以下の事項等を検討していく予定。

- (1) システムの要求条件
- (2) システムモデルの設定
- (3) 既存システムとの共用条件
- (4) 最終的なシステムの技術的条件 等